



今年の教区の目標

交わり深め 力あわせ
救いのおとずれ広げよう

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2022年1月1日 (毎月1日発行)

カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第758号 (1月号)



2022年頭司教挨拶

さあー！皆で共に「交わり深め 力あわせ 救いのおとずれ広げよう」

カトリック那覇教区長 ウェイン・F・バートン司教



那覇教区の兄弟姉妹の皆さん、
新年のお慶びを申し上げます。

新たな年を迎えるにあたり、皆さんとすべての民の平和と幸せを切に祈り求めます。猛威を振るう自然災害やパンデミックからすべての人が守られ、誰一人失われることのないようにと。

しかし、どんなに祈っても新たな危機は訪れ、多くの命が失われてしまいます。でも、それでも私たちは、いのちの与え主なる御父の望みを信じ、その実現に向けて歩みを進めるために祈り求めることを止めません。なぜなら、これらの不幸は、神からのものではなく、むしろ人間の、神を無視した生き方がもたらした結果だからです。

聖書は、神が人をご自身の似姿として存在せたと教えます。そして、この被造物を神のように愛し、創造者のように創造的に用いるように委ねました。

はたして、これまでの人類の歩みはどのような歩みだったでしょうか。神の愛の溢れ出として生み出されたこの世界を、神のように愛でてきたと言えるでしょうか。

自然に対して、あるいは他者に対して、謙虚に共に生きる・共に歩む道を選択してきたなら、多くの不幸をもたらす環境破壊や温暖化

は回避できたことが証明されつつあります。

もしそうならば、私たちにはまだ希望が残されています。それは、私たちひとり一人の回心とその広まりである人類全体の回心の可能性が残されているからです。すべての人が神に立ち返って、共に歩めるなら、必ず事態は快方へと向かうでしょう。しかし、神への立ち返りは、人間の自由に委ねられています。個人的な回心はまだしも、他者をしかも人類全体の回心をと考えると、もはや不可能にしか思えません。実際、人間には不可能なことでしょう。

しかし、神にはお出来にならないことは何一つありません。「全能の父である神を信じます」とは、具体的にはこのようなことを信じていることだと思います。そして、私たちは全能ではないことを認めて神により頼むことによって、父なる神への回帰への旅を始めることが出来るようになります。そのためにイエス様は私たちの一人となられ、神への回帰の路を切り開いてくださいました。また、その旅路の導き手なる聖霊を送り、ひとり一人を内面から回心へと導き、民全体に人類全体を神へと立ち返らせるのです。ひとり一人の回心では足りません、民の回心こそ人類としての回心が求められています。

こうして、三位一体の神への信頼と委ねをもって、神と共にある共同体として神への歩みをはじめるとき、私たちは、もはや何が起ころうともそれに誠心誠意対応すればそれでよいのです。誠実に現実に向き合うこと、その現実を通じて語りかける良心の声に誠実に応えることで、私たちは神の創造の業に参加し、神の民としての役割を果たすことになるでしょう。

「まくとうそーけー、なんくるないさ」(誠実になさい、そうすればおのずからなる)。人間の仕業によるのではなく、神に善に満ち満ちた世界となるよう求め、行動しましょう。それが絶えざる創造の業を受け継ぐこと、自分自身と被造物を再び神へと向かわせること、自分と被造物への責任を果たすことになるからです。

シノドスが始まりました。そのテーマは「交わり・参加・宣教」です。その意味をあるシスターは美しい言葉で説明しています。

「神の国は交わりの中で芽生え、共に歩むことを通じて成長し、愛を生きる所に実現する。」

この言葉に触発されて今年の教区目標を定めました。

さあ！皆で共に「交わり深め力あわせ救いのおとずれ広げよう」



Dear Brothers and Sisters of Naha Diocese, Happy New Year !



I hope that your New Year will be filled with every blessing from God both for you and for all your loved ones. Thank you for all your hard work in the parishes and in the diocese to keep everyone safe from the pandemic. Also thank you for your prayers for my health and for the health of all the priests of the diocese during the past year. My New Year's prayer is that 2022 will be a year of good health, safety, and peace for everyone in Okinawa.

During the coming year, in our Churches both here in Okinawa and throughout the world, the Synod called by Pope Francis will be the focus of our attention. The threefold theme of the Synod is: Communion, Participation and Mission. The Pope has asked everyone to take part in the Synod by discussing these themes during the coming year. In Naha Diocese most of these discussions will be held in the individual parishes but there will also be a diocesan gathering during the year. For this reason, I have decided to make the threefold theme of the Synod, our diocesan aim/theme for this year. In Japanese, for the theme of Communion, we will use the words, 交わり深め; for Participation, we will use the words, 力あわせ; and for the theme of Mission, we will use the words, 救いのおとずれ広げよう.

As you know the word, Communion, means Holy Communion to most of us, but in this case, it is not only referring to Holy Communion but is mainly referring to the deep relationship that we have as Christians with each other in our Lord Jesus Christ. Through prayer and discussions, we hope to deepen our feelings of communion with each other during the coming year.

Participation in Church services and in parish activities is both a right and a privilege for all Catholics. This participation is not only limited to going to Mass on Sunday, but also includes living out our faith in our daily lives at home and at work. It also includes participation in lay associations, prayer groups, and Bible study groups etc. that can deepen our faith.

In order to deepen our faith, let us try to attend some of the activities at the local parish or on the diocesan level during the coming year.

Mission has many meanings and is a broad concept but it certainly includes inviting others to learn about Jesus and his church. We should be proud of our faith and when possible, share our faith with others. Also sharing the scriptures with others is also a vital part of our mission as Catholics. It is my hope that at each parish the parishioners will talk together about the mission that God has entrusted to us as Catholics. Each of the parishes could even develop a mission plan for the coming year.

I am sure that discussing the thematic words of the Synod: Communion, Participation and Mission, will be a catalyst for fostering many innovative ideas and be the starting point for many new activities in our parishes. May God bless us as we strive to build up the Kingdom of God in Okinawa during the coming year.

God Bless you and may you have a wonderful New Year!

Bishop Wayne



私たちに与えられた一番の賜物は、勇気ではないだろうか。勇気がなければ何もできない。自由も安全も命も家庭も子供も学業や仕事も信仰も、勇気がなければ保てない。勇気にはすべてが含まれる。

約半世紀前の歌、「帰って来た酔っぱらい」は、父との思い出深い曲だが、ここで書き摘んで紹介したい。父は車を運転しながら、祈りを唱えた後、この曲を何度も歌い、私達に聞かせた。「おらは死んじまったであゝ」

「おらは死んじまったであィィィィィ天国行つたであィィィィィ長い階段を 雲の階段をおらは登つたであィィィィィふらふらと、おらはよたよたと登り続けたであィィィィィと天国の門についたであィィィィィ天国良いとこ一度はおいで、酒は美味いし、ねえちゃんはきれいだィィィィィ毎日酒を飲み続け、神様の事をおらはわすれたであィィィィィだけ天国にやこわい神様がいつもどなるんだィィィィィ（なあィィィィィ天国ちゅうとこはそんな甘いもんやおまへんのやィィィィィと真面目にやれ！）」

この歌は仏教的ではあるが地上と天上、輪廻転生を思わせ、深く味わって聞くと面白い。利己的に生きると天国にはなかなか入れない。実に地上も天上も

同じだと捉え何度繰り返せば解るのか神様の寛大さを思うとともに、色々な気づきがある。

私はある時、臨死体験をした。あの体験によって目を覚まし勇気を頂いている。毎日を丁寧に生きて生きることにした。天上から勇気を頂いた。それは「死は喜びである」と言う事である。私達はどこから来て、何処に帰るのか？

謙遜を学ぶようにと弱さを授かった。偉大な事ができるように健康を求めたのに、より良き事をするように病気を賜った。幸せになるようにと富を求めたのに、賢明であるように貧困を授かった。世の人々の賞賛を得ようと成功を求めたのに、得意にならないようにと失敗を授かった。求めたのは一つとして与えられなかったが、願いはすべて聴き届けられた。心の中の言い表わされない祈りはすべて

たて軸よこ軸

愛を実践する勇気を下さい

泡瀬教会 曾根ルチア

息を引き取られた人に対して自然と手を合わせ合掌する。命の尊さを理解しているからではないだろうか。

貴重な体験への感謝と結婚三十周年を記念して、夫婦で聖地巡礼（ルルドとファティマ）へ出かけた。このお恵みも偶然ではないと思っている。

ある祈りの詩に次のような一節があった。

「大きな事を成し遂げるために力を欲しいと神に求めたのに、叶えられている。」

コロナ禍の中で、私は癌を告知された。これも意味深い与えられた学びである。現代では二人に一人が癌に罹患すると言われ、三人に一人は死に至るという現状がある。化学治療も体験した。副作用はさすがに辛く苦しかった。私は家族や職場スタッフ、そして周りの人に支えられて、乗り越えることができた。この体験はこれからもっと深く患者さんに寄り添うために願っている。

与えられたものだと思えている。だから新たに与えられた命の時間をどう生きるかを問い祈っている。祈りはいつも導いてくれている。私は今、居宅地域への訪問看護事業に勇気をもって専念している。病・老・死Ⅱ命と関わっている。生命あるものは、いつか誰にも死が訪れる。死は生の一部だ。しかし、最も偉大な神秘は「死」である。お看取りした患者様の表情から学ばされている。だから、看取りに至るまでの寄り添いを最も大切にしている。命は愛によって生かされている。現場での出来事が証明してくれている。臨終の時を言葉や態度、形で知らされることもある。私達は誰もが「愛」を知るために生まれて来た。愛は受けて与え合わないと思えないからだ。不平不満をもっていると思えない。

コロナ禍のパンデミックで人々は混乱しているが、『いつたい、命は誰のもの？』

死を恐れるのは当然だが、生と死、死生観に心を向ければ、今の時を大切にできる。地域社会に愛の実践を拡大していくため、祈りと共に智慧を頂き勇気をもって命に仕えていきたいと願っている。



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30～17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)

Book カトリック文化センターからお知らせ

ミニのみの市開催

新年あけましておめでとうございます。いつも文化センターをご利用いただきありがとうございます。当センターでは2月21日(月)から3月5日(土)の期間、ミニのみの市を開催します。古本、聖具、布製品等を用意してお待ちしています。尚、売上金はカリタスへ寄付いたします。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

カトリック文化センター
〒900-0005 那覇市天久 1-8-7 問合せ:電話 098-868-4649 (崎山・新川)

2021年12月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2021年12月8日(水) 9:30～12:20 安里教会にて聖ヨゼフ年の閉幕ミサ、その後会議。

1. 報告及び連絡事項：始めの祈りはウェイン司教、司会はロドニー神父が担当。

- ・会議の前に、開南教会の古川神父より、クリスマスと新年のミサ時間の変更が報告された。
- ・前回(11月会議)の議事録の確認を新田が行い、承認を得た。
- ・ウェイン司教から、パトリック神父が年明け1月5日に帰国されることが報告され、16年に渡る沖縄での宣教活動への感謝と労いの言葉が述べられた。パトリック神父は特にスペイン語を話す信徒たちの為、名護、読谷、普天間、小禄、与那原でスペイン語ミサを捧げて、信徒たちの霊的ケアに務めてこられた。パトリック神父の帰国後も教区として、スペイン語圏の信徒たちのため、引き続き霊的ケアを継続していくことが伝えられ、花束と記念品がパトリック神父に贈呈された。
- ・安里教会のフランシス神父の病状について、津波古さんから報告があった。司祭たちのレクレーションの最中に倒れ、救急搬送されたが、一緒にいた司祭たちの適切な応急処置のお陰で大事には至らず、専門医の治療で、早い退院が見込まれていることが報告された。また報告を受けて、ウェイン司教から外国籍の司祭たちに対して、素晴らしい日本の医療保険制度が適応されているので、病院での検診などを積極的に活用して、健康管理にも努めるよう要請があった。また、消防署が開いている救急講座の受講の勧めや AED の小教区への設置など、様々な意見が出された。
- ・その他
- ・司教会議が東京の中央協議会で開催されるが、ウェイン司教は大事を取ってズームで参加されることが報告された。
- ・教区事務局より、ローマ及び教区分担金の納入について説明と依頼が行われた。

2. 審議事項

- ・コロナ感染症に対しての持続的な感染防止対策を実施しつつ、教会の典礼や活動を徐々に広げてゆけるようよう準備を進めて欲しいとウェイン司教から要請が行われた。
- ・マーシーさんから12月、1月の司教日程について調整が行われた。12月の公式訪問について、12月24日が開南教会、25日安里教会でのミサを主式。26日はコザ教会訪問、午後3時から安里教会にて青少年のクリスマスミサとクリスマス会に出席。1月1日は開南教会でのミサを主式。2日と9日はシスター達への講話。1月23日は具志川教会で午後3時～サントニーニョのお祝いのミサを主式。30日はベトナム語圏の司祭と信徒たちとの新年ミサを確認した。
- ・2月11日の教区の日についてウェイン司教から報告が行われた。コロナ禍で行われなかった教区の日、金祝や金婚式の対象だった方々から、教区の日のお祝いが再開される時には、遑って祝福を頂きたいという声が寄せられている。コロナ感染の様子を見ながらではあるが、教区の日が開催できる状況であれば、開催できなかった時の祝福も含め、お祝いできるよう準備を進める意向であることが報告された。小教区では金婚祝の該当者を、教区では司祭・修道者の金祝や銀祝の該当者を調査して報告されるよう要請があった。祝賀ミサは行うが、祝賀会での飲食は見合わせる方向であることも報告された。
- ・教区シノドスについて、担当のマイケル神父より報告が行われた。シノドス前会議の日程や概要が提示され、それを受けて討議が行われた。来年6月4日までに教区としての諸意見を集約して司教協議会に提出するよう求められているので、小教区での討議を進めていただいて4月5日までに小教区のレポートをマイケル神父に提出、マイケル神父が各小教区のレポートをまとめて、5月の連休の頃に各小教区からの代表者を交えて発表と分ち合いを行い、教区としての意見を確定し、日本司教協議会に提出していくことが決められた。詳細については継続審議とした。
- ・2022年の教区目標について、ウェイン司教から報告が行われた。シノドスのテーマである「交わり、参加、宣教」に照らして、「共に交わり 力合わせ 神の国を広げよう」という案が提示され、検討された。概ね方向性が了承され、最終的には司教の決定に委ねられた。
- ・2022年、待降節第1主日から導入が予定されている「新しいミサ式次第と奉献文」の変更箇所の手帳が、司祭たちに各2冊配られ、目を通しておくよう要請された。導入までにまず司祭・助祭団で、続いて各小教区で信徒と勉強会等を行ってスムーズに移行できるよう準備することが確認された。
- ・12月26日に開催される青少年のクリスマス会について、担当のヨアキム神父から報告があり、安全面に十分な配慮をもって行うことが報告され、参加と呼びかけへの協力要請が行われた。
- ・次回司祭助祭拡大会議は2022年1月4日(火) 午前10時から12時、安里教区センターで行われることが確認された。

シノドスの歩み 始まる

世界代表司教会議 第16回通常総会に向けて

For a synodal Church
communion | participation | mission



教皇フランシスコは、2021年10月10日、バチカンでの開会ミサをもってシノドスの始まりを告げられました。これにより、第1段階、地方教会レベルでの歩みが10月17日から開始されています。2022年秋以降、第2段階、地域・大陸レベルの作業に入り、最終段階、2023年10月のローマでの世界代表司教会議に向けて歩みが続きます。

教皇フランシスコは、シノドスのテーマとして、「ともに歩む[＝シノドス的]教会のため 交わり、参加、そして宣教」を挙げられています。教会の神秘の神学的表現としての「交わり」と「宣教」の重要性を強調された教皇は、特に第二バチカン公会議は「交わり」を教会の本質として示すと同時に、すべての民においてキリストと神の御国を告げ、それを築くことを「宣教」として宣言している、と話されました。

「交わり」と「宣教」は、すべての人のそれぞれの立場からの「参加」を通じた具体的な歩みを伴わない限り、それらは抽象的なものに留まってしまう恐れがある、と教皇は述べ、シノドスが真に実り多きもの、教会の真の表現となるには、皆の真の「参加」が必要であると語られました。

また、教皇は、シノドスは司牧的回心のための大きな機会を与える一方で、いくつかの「リスク」も抱えていると指摘しています。そのリスクとして、シノドスを中身の無い表面上のものにしてしまう「形式主義」、高尚だが概念的で世界の教会の現実から離れた「主知主義」、今までどおりでよいと考え何も変える意志がない「現状維持主義」の三つに注意するよう促されました。さらに、教皇は、シノドスを恵みの時ととらえる中で、ここから得られる三つの「チャンス」を考察しておられます。

その一つは「共に歩む教会」を目指して、無計画にではなく「構造的に」歩むチャンス、もう一つは、皆が家のように感じ、誰もが参加できる場所となるために「耳を傾ける教会」となるチャンス、そして、兄弟姉妹たちの希望や困難に耳を傾けることで司牧生活を刷新し、「寄り添う教会」となるチャンスがある、と話されました。

神が教える新しさに開く「これまでとは違う教会」に向かって、謙虚に耳を傾け合い、共に歩むことができるよう、教皇は聖霊の助けと導きを祈っておられました。

那覇教区では担当司祭のマイケル神父が中心になって準備が進められています。那覇教区内の各小教区等の意見書(A4用紙枚以内)のデータファイルを2022年4月5日(火)までにシノドス連絡担当司祭へEメールで提出することが要請されています。また、来年5月の連休頃に教区内の諸意見を分かち合う「シノドス前会議」を予定していることや、そこに向けてシノドスの祈りと意見聴取のための質問集をすでに各小教区主任や修道会等の責任者宛送付してあるので、よく活用してシノドスの歩みを出来るだけ多くの人と共有をするよう要請がなされています。

洗礼おめでとうございます

コザ教会

2021年5月23日

アン 譜久山エラスミレ (5ヶ月)

2021年9月26日

フランシスコ 名嘉織部 (4ヶ月)

2021年10月23日

Mary: Komiya Jitsuko Trajano (1歳)
マリ コミヤ・ジツ子・トラジャノ

キリスト教
一致祈祷週間
1月18日～25日

2022



世界こども助け合いの日

2022年1月30日

わかち合うところはたからもの

教皇庁宣教事業 児童福祉会



「ちむぐくる」との出会い

安里教会 津波古 聡

二〇二一年十月七日（木）
十二時二十分頃、私は北那覇
税務署での用を終えて、車で
帰途に就いた途端雨の降る中、
道路左わきに四つん這いにな
ってこちらを見るおばあさん
と目が合いました。その目は

「助けて！」と叫んでいる
ようにも、あるいは「気づい
て！轢かないで！」と訴えて
いるようにも見えました。一
瞬事故かと思いましたが、お
ばあさんは何とか立とうとも
がいているようなので、すぐ
に車を左端に寄せて止め、傘
をさして近寄りました。

土砂降りの雨の中、大きな
二つの買い物袋を持ったまま、
何とか立とうとしているず
ぶ濡れの老婆に、傘を差しつ
つ「大丈夫ですか？どうした
の？」と声をかけると、「転ん
でしまって、立ち上がるこ

が出来ない。」と
言いながら、必
死に立ち上がろ
うとがいてい
るので、手を貸

そうとしましたが、荷物を手
放さないため、手を取ること
が出来ずにいました。私は荷
物に手をかけ「こんな重いも
のを持ったままでは無理です
よ」と言ってその手から荷物
を取ると、彼女は両手を使っ
て縁石につかまり、ようやく
自力で立ち上がりました。

落ちていた杖を渡し、「家は
近いの？持っていくよ！」と
声をかけると、私を警戒して
か大変重たい二つの買い物袋
を取り戻そうとしました。一
旦は荷物を手渡そうとしまし
たが、あまりに重いので、私
は手を放すことなく「やつぱ
り無理ですよ！わたしが運ぶ
から。」と言って持ち直しまし
た。一袋4kg以上はありそう
な買い物袋を二つも持って、
もう片方の手で杖を突いて歩
いていたようで、雨に濡れた
グレーチングに杖がサンダル
が滑って転んでしまったよう
でした。

何度か「わたしが運ぶか
ら！」と説得してやっと動き
出したおばあさんは、「運が悪
かったねー」ってつぶやきま
した。私は彼女が自分に降り
かかった災難を嘆いているの
だと思い、返す言葉を探して
いました。すると続けて「こ
んなところ（場面）に通りが
かつて」と私の境遇を氣遣つ
てやさしく声をかけていたの
でした。

その瞬間、衝撃が走りまし
た。私はその言葉に託された
彼女の想い、「ちむぐくる」に
強く心打たれたのです。自分
の痛み、悔しさ、雨に濡れて
四つん這いになっていた自分
のまじめな姿を嘆くのではな
く、そんな自分に出会ってし
まった相手を思いやるとは、
なんとという優しさ、なんとい
う利他主義、なんとという「ち
むがなさ」かと。私には、に
やかに信じ難い言葉だったの
です。その後、無事に長く急
な階段のアップの二階まで
荷物を運び届け、重い荷物を
無事手渡ししました。

この不思議な出会いと体験
を思いめぐらしていると、十

字架上で苦しむイエス様が示
した無私の愛をあのおばあさ
んの魂に感じるようになりま
した。それはどんな時も相手
を優先する生き方、苦しむ自
分のことよりも相手のことを
先に思いやってしまう心、こ
れこそウチナンチュが大切に
にしてきた「ちむぐくる」と
言えるのではないかと。

このような話は、あちこち
で聞かれます。高江で米軍へ
りが農家の牧草地に不時着し
たとき、そこからわずか三百
メートルほどの家屋に住む被
害農家の西銘さんのおとうさ
んは、事故の直後「大丈夫か
ね！大丈夫かね！」としきり
に搭乗兵のことを氣遣ったそ
うです。

そのおじいさんは被害を受
けた自分たちのことよりも、
自分たちに被害をもたらした
人のことを心配したのです。
また、後に調査に来て、その
ことを聞いたウチナンチュ
国会議員は「さすがは」ウチ
ナンチュだね！」と感心し
たそうです。このような無私
の思いやり「ちむがなさ」を
手向けることができるのも、ま

たその美しさに気付き感心で
きるのも、ウチナンチュに
共通する価値観があるからな
のでしょうか。

困っている人を助ける行為
そのものや、その親切に感謝
することや迷惑をかけたこと
を謝ることはとても立派なこ
とですが、それはあくまでも
自分の立場からの行為です。
ウチナンチュのちむぐくる
は、自分を超えてしまった全
くの無私の状態で、相手の痛
みを感じ取ってしまう反射的
な反応のようです。

このような自らの魂の動き
を「ちむぐるさん」とか「ち
むやみ」と表現し、その魂
の動きとそこからおのずと生
じる思いやりを「ちむがなさ」
とって大切にしてきたので
しょう。

このようなうつくしい「ち
むぐる」に出会うたびに、「こ
こに生まれてよかった」。ウ
チナンチュでよかった！っ
て心底思えるのです。そして、
「ちむぐる」に憧れ、あのオ
ジー、オバーのようでありた
いと願ったのでした。

祈りの詩

名護教会 渡慶次純栄

教会で先輩から紹介された詩がある、話は四十年以上前に遡る。教会で活動していた青年たちが、当時の主任司祭に刺激を受け、その神父が分かち合ってくれたお祈りの詩を手作りの小冊子にまとめた。今のようにパソコンやワープロがあった時代ではない。当時の最先端だった日本語タイプライターで原稿を打って作られたものだった。

私個人はその神父と出会う機会はなく、他教区のことなのでその司祭が存命であるかどうかも知らない。そればかりか、詩集を見せてもうって、それを手書きで写したという先輩に見せてもらい、私もまた手書きで写したものだから、司祭の名前も所属教区も書かれていない。ご存知の方にはご教授いただきたい思いも手伝って紹介したいと思った。

まずは今の時期に関連した詩。

待降節

待つ じつと立ち尽くす人の形

待つ 幾億年耐え抜いた波間の岩の
厳かさ

待つ 嵐の中の小船 見出した星の
喜び

私は砂漠の花

朝露のジューズが

待ちどおしめぐります

御降誕

心に静寂を持つ人が主を見出す
彼はしじまの中に生まれたから
心の貧しい人は神を待つ
彼は貧しく生まれたのだから
小さくなられたあなたのの中で世界
は大きくひろがる

聖家族

聖家族 私の驚きは
その平凡さなのです
聖家族 私の愛着は
その汗のあることです
聖家族 その非凡さは
その奇跡の喪失です
だから私は聖家族のなかに
神の御子を見るのです

洗礼

とつくにびととひかんで
おります
神さま 私は星を見て
おりませんもの
我が娘よ
それは外を見ているからです
心をみつめてごらん
神さま 心をひろげて
お待ちしております
そこにあなたの顔一杯深く
写してください

息をつめると

新しい息吹が生まれる
ヨルダンに息をつめ

神の愛子が生まれ
カルワリオに息をとめ

神の愛子が生まれた

今日 そして私も生まれた

洗礼の水鏡に私の顔を写す時
私の顔にあなたが現れる
私はこの水から
上がったのだから
明日私はもつとよい顔を写そう
あなたの心をもつと私の心と
しているのだから

人 愛して人となり
母 愛して母となる
神 愛して子となり
子 今日生まれ行く
続いて、少し時期は早いのですが、
四旬節から復活節まで。

四旬節

苦しみの中 私はやさしく
予感し 喜びの中に 光を
見ている
罪の中にある時も
あわれみの大空の中に飛び交い
重荷を背負ついても
私の心の翼は軽やか
悲しみの時 慰めを知る
心ふるわす
あなたの愛によつて
神さまどうか
私の背におのりください
貧しい口バの私が
人々の重荷に耐えられず
倒れこみ あぶのえじきに
なるとき
すんだ目を主人に向け
ひずめをあわせる口バのよつに
どうかあなたのあわれみの前に
私の手を合わせてください

四旬節Ⅱ

肩深くつまれた物ごいする人の顔
生きる力を吸い取られた未亡人の
落ち窪んだ肩
罪の重荷に打ちひしがれた
収税人の背
神さま
あなたがご覧になるのは
悲しい人の背
その中に秘められた人間の
悲しみです
神さま

私の背から そつと十字架を
取り去ってください
おすおすとお上げた私の目は
その時

あなたの慈しみのまなざしに
会います
それから私は泣くのです
あなたの慈しみの顔を取囲く
いはらの冠を見たからです

聖金曜日

とつとつとここまで追い詰めて
しまいました
愛すること 愛することは
孤独なのです
私は今日
それを確かめたのです
死の痛みをなで

復活祭

光がもどる朝
マグダレナへの呼びかけ「言
「マリヤム」
光にめざめなかつた
マグダレナが主をみとめる
「ラボニ」(主よ)

すがすがしい朝…

私の心にも
愛をこめて
生まれて 愛されたことを悟る
光の朝 私はあなたの子となる
明日 光となつて友を包もう

主の昇天

主は見えなくなられた
私の心に住まうために
友よ 私の眼の輝きを見てください
そこに主が微笑んでいられるの
を見るでしょう
主は天に昇られた
私にもつと近くなるうとして
友よ 私の顔のほてりにふれて
ください
それは主が燃えていられるのです

無題

貧しいのです それだけ私は
主よ
あなたが何にも
私にねたまれないほど
でも 神さま
もし 私のあなたを見る目で
感じる心まで取つてくださるならば…
ああ その時こそ
全くあなたのものなのです
白い衣を着るのではありません
白い心になるのです
泥を吸い上げても美しく咲ける
蓮のよつに
純く咲きまじよう
雨に濡れる新緑のよつに
あなたの悲しみの涙で
私は照り映えるのでしよう

教区NEWS教会

フィリピン信徒の集い

G・F・C・

去る十二月二十日(土)、首里教会を会場に、第九回目となるフィリピン信徒の集いが行われた。ウェイン司教も参列して、担当司祭のロドリゴ神父(首里教会)とサニー神父(具志川教会)と共に感謝のミサを捧げ、交流を深めた。

(シスターレミ)



着衣式

安里教会

安里教会の出身で、教区事務所で勤めてもいた、マルガリタ津波古薫さんが、去る十月十六日に着衣のお恵みを頂いたという嬉しいニュース



が飛び込んで来ました。

厳律シスター会那須の聖母修道院(那須トラピスト修道院)に志願していた薫さんは、志願期を経て、隠世共住修道生活の修道服が与えられ、修練期へと入られたとのこと。これからも薫さんのためお祈りしていきます。

(増田麻美)

待降節黙想会

首里教会

毎年四旬節と待降節の時期の行われている黙想会が、十二月十二日に、具志川教会のサニー神父の指導で行われた。まず主日のミサを捧げられ、ミサ後はサニー神父がご自身で用意されたスライドや音楽を使って、待降節は主の誕生を待つ大切な期間であり、回心の重要性を解説された。ミサ後は「ゆるしの秘跡」を頂いて黙想会を終了した。

(新田通信員)

計報

◆名護教会

アシジのフランシスコ 三丸 正則 様

二〇二二年十一月十一日帰天享年 七十九歳

◆首里教会

アンナ 島袋 幸枝 様

二〇二二年十一月六日帰天享年 九十二歳

セシリア 美里 和枝 様

二〇二二年十一月六日帰天享年 八十七歳

◆与那原教会

ヨゼフ 宮城 良治 様

二〇二二年十一月十五日帰天享年 九十六歳



私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥掘町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

http://w1.nirai.ne.jp/yasurai

E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

葬祭の
「やすらい企画」

24時間
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬典社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうな会」会員募集中です。

ひ が たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく
☎098-853-1059

